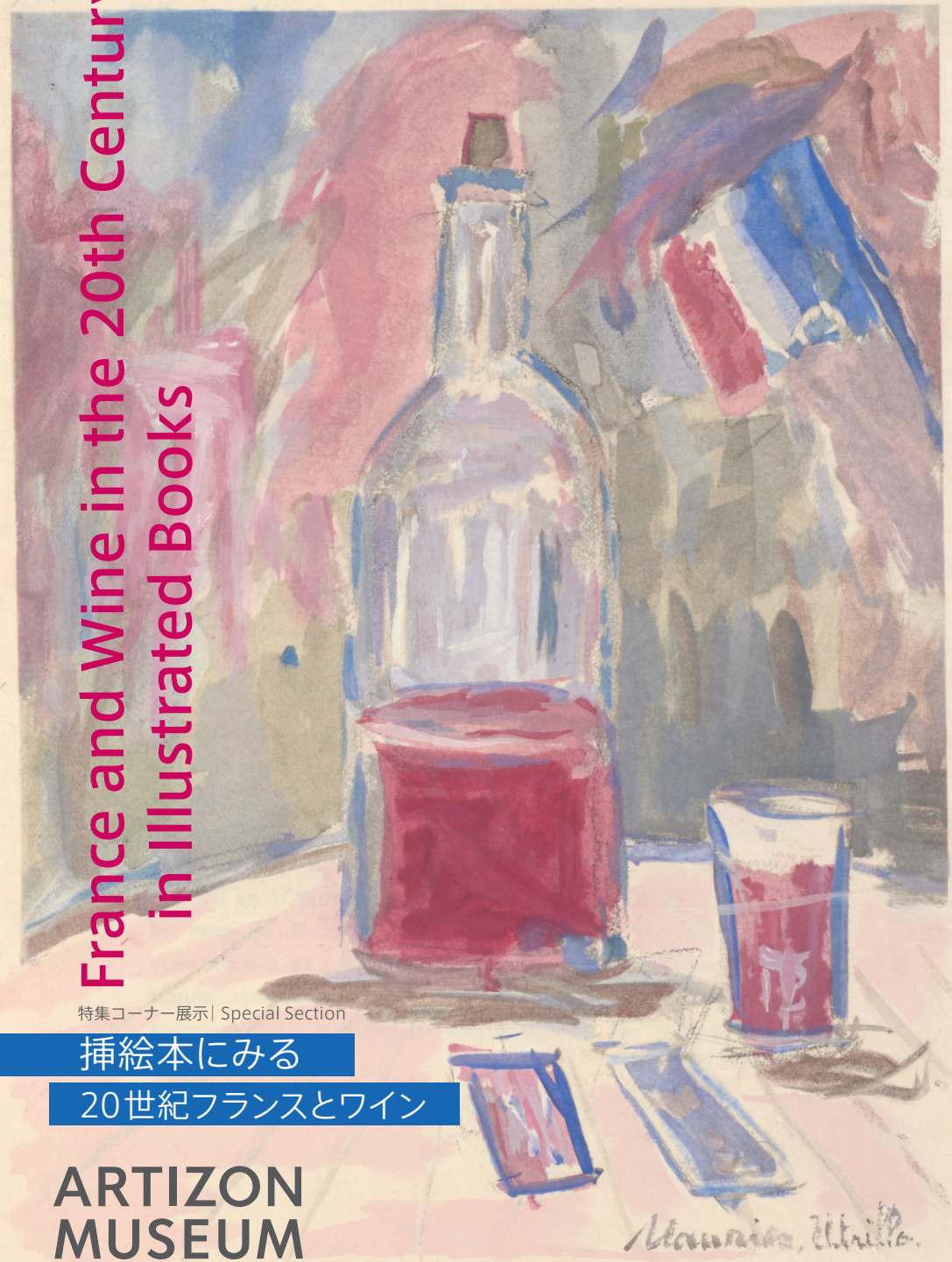
France and Wine in the 20th Century, in Illustrated Books



特集コーナー展示| Special Section

挿絵本にみる
20世紀フランスとワイン

ARTIZON
MUSEUM

France and Wine in the 20th Century, in Illustrated Books

挿絵本を通してみる酒文化と芸術表現

石橋財団コレクションには、芸術家が挿絵を手がけた美しい貴重図書が収蔵されています。そのなかに、モーリス・ユトリロ（1883–1955）をはじめとするフランス20世紀の画家たちによる版画がほどこされた、ワインや蒸留酒をテーマとする３冊の挿絵本があります。

本特集展示ではその3冊 —『葡萄酒、花、炎』（1952年刊）、『我らの葡萄畑をめぐって』（1952年刊）、『オー・ド・ヴィー：花と果実のエスプリ』（1954年刊）を、関連する作品や書籍とともに展示します。3冊ともパリの出版社ベルナール・クラインから刊行されました。

挿絵本を通して、20世紀のフランスにおける酒文化に画家たちがどのような関わりをもち、また書物というメディアでどのような芸術表現が展開されたかという、当時の創作活動の一端をご紹介します。

モーリス・ユトリロ
《ムーラン・ド・ラ・ギャレット》1933年、鉛筆、パステル・紙

Maurice UTRILLO
Moulin de la Galette, 1933, Pencil and pastel on paper

20世紀のフランスとワイン

フランスでは古くから神話やキリスト教と結びついてワイン文化が発達してきました。しかし19世紀後半になると、葡萄畑の病害や経済不振を背景に、添加物を用いた偽造ワインや、水で薄めた粗悪なワインが横行し、深刻化しました。

そこで20世紀初頭、政府はワインの原料や製法、原産地を統制するさまざまな法律をつくり、ワインの品質管理を徹底するとともにブランド化に乗り出します。また生産者や販売者はワインボトルのラベルや広告に工夫を施すことで、洗練されたフランスワインのイメージ形成に努めました。

第一次大戦と第二次大戦の間にはつかのまの平和がおとずれ、首都パリは都市生活やファッションを楽しむ人々で活気付きます。ムーラン・ド・ラ・ギャレットのような、お酒とダンスを楽しむ場所も、いっそう賑わいました。芸術文化も栄え、各地からパリへ集った画家たちはエコール・ド・パリと呼ばれ時代の潮流となりました。

第二次大戦が始まるとワインの消費量は落ち込みましたが、戦後再び息を吹き返します。そして、ワインの質やイメージがより重要視される時代へと移っていきました。こういった食と文化の興隆を背景に、著名な画家たちの作品を用いた挿絵本がつくられ、芸術と酒文化が結びついていきました。

ラウル・デュフィ
《ポワレの服を着たモデルたち、1923年の競馬場》1943年、油彩・カンヴァス

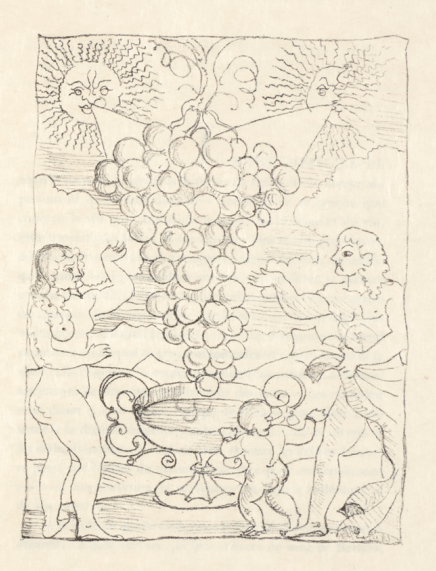
Raoul DUFY
Poiret's Mannequins at the Race Track in 1923, 1943, Oil on canvas

『葡萄酒、花、炎』 *Vins, Fleurs et Flammes*

ジョルジュ・デュアメルほか著、モーリス・ユトリロほか挿絵
パリ：ベルナール・クライン、1952年刊、305部限定のうちの13番目

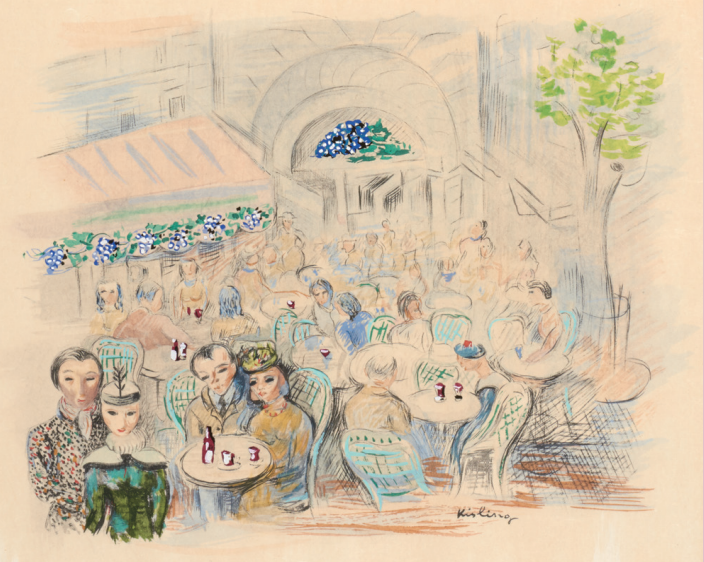
Wines, Flowers and Flames
Text by Georges Duhamel, et al., Illustration by Maurice Utrillo, et al.
Paris: Bernard Klein, 1952, Edition no.13 of 305 examples

本書は詩人ポール・ヴァレリー（1871–1945）などフランスの作家12名が書いた、ワインにまつわるテキストで構成されています。挿絵はユトリロやモイズ・キスリング（1891–1953）などエコール・ド・パリの画家を中心に、12名の芸術家が担当しました。当館所蔵の版には、アンドレ・ドラン（1880–1954）が手がけた挿絵《黄金時代と約束の地》の銅版原版も付属しています。



アンドレ・ドラン《黄金時代と約束の地》エッチング、銅版原版
André DERAIN, *Golden Age and Promised Land,* Etching, Copperplate

葡萄はキリスト教絵画において、キリストやキリスト信仰の象徴として描かれてきました。また葡萄酒はキリストの血に喩えられました。ドランの絵のタイトルにある「約束の地」とは、旧約聖書にでてくるカナン、すなわち神がアブラハムの子孫に与えると約束した場所のことでしょう。とても肥沃な土地のため、大人2人で運ばなければならないほど大きな葡萄が採れたといいます。葡萄は神話や宗教の中でいつも重要な意味や役割を担わされてきました。この挿絵は単に飲み物である以上の、西洋の人々の精神世界を形づくってきたものとしてのワインに想いを巡らさせてくれます。



モイズ・キスリング
《セイレーンたちのカフェ》
リトグラフ、ポショワール
Moïse KISLING, *Cafe of Sirens*
Lithograph and pochoir

本書の序文を担当した作家ジョルジュ・デュアメル（1884–1966）は、「ワインは自分だけの楽しみではありません。社会的な楽しみなのです。まさに、人と人が心を通わせるために欠かせない要素のひとつなのです。」と述べています。その言葉を表すように、本書の挿絵にはワインのもとで人々が会話を楽しむ様子や、仲間が集う酒場のある街並みが描かれています。ワインを描くことは、人の暮らしを描くことに結びついているのです。

モーリス・ユトリロ
《ミューズたちの酒場》
リトグラフ、ポショワール
Maurice UTRILLO
Cabaret of Muses
Lithograph and pochoir

『我らの葡萄畑をめぐって』

ルネ・エロン・ド・ヴィルフォス著、モーリス・ブリアンション挿絵
パリ : ベルナール ・クライン、1952年刊、305部限定のうちの13番目

Across Our Vineyards
Text by René Héron de Villefosse, Illustration by Maurice Brianchon
Paris: Bernard Klein, 1952, Edition no.13 of 305 examples

本書はフランス各地の葡萄畑やワイン造りについて書かれた挿絵本です。歴史学者ルネ・エロン・ド・ヴィルフォス（1903–1985）が文章を書き、画家モーリス・ブリアンション（1899–1979）がワイン畑の風景を美しく描き出しています。地方ごとの特徴あるワインがブランド化されていく時代を背景に、文章とイメージで自国のワイン畑を称揚する動きが、挿絵本というかたちに表れたといえるでしょう。
シャンパンで有名なシャンパーニュ地方の絵では、グレーと白の色調でまとめられた画面によってその特徴である白亜質の土壌が表現されています。アルザス地方の葡萄畑に描かれているのは、モミの木です。モミが葡萄の若い枝に触れることで葡萄がより甘くなり透明感のあるワインができる、とテキストでは綴られています。
最後の一章は当時フランスの植民地であった北アフリカにあてられています。地中海らしい青空の下、運搬が待たれるワイン樽が並び、遠くには海を渡ってやって来る貨物船が見えています。

モーリス・ブリアンション
《シャンパーニュ》リトグラフ、ポショワール
Maurice BRIANCHON, *Champagne*
Lithograph and pochoir

モーリス・ブリアンション
《アルザス》リトグラフ、ポショワール
Maurice BRIANCHON, *Alsace*
Lithograph and pochoir

モーリス・ブリアンション《北アフリカ》リトグラフ、ポショワール
Maurice BRIANCHON, *North Africa,* Lithograph and pochoir

『オー・ド・ヴィー：花と果実のエスプリ』

ルネ・エロン・ド・ヴィルフォス著、ジョルジュ・デュアメル序、ラウル・デュフィ挿絵
パリ：ベルナール・クライン、1954年刊、305部限定のうちの169番目

Eaux-de-vie: Spirit of Flower and Fruit
Text by René Héron de Villefosse, Introduction by Georges Duhamel,
Illustration by Raoul Dufy
Paris: Bernard Klein, 1954, Edition no.169 of 305 examples

ラウル・デュフィ（1877–1953）の挿絵が美しい本書は、『我らの葡萄畑をめぐって』と同じエロン・ド・ヴィルフォスが書いたものです。原タイトル「Eaux-de-vie」は、フランス語で「生命の水」を意味しますが、同時にブランデーなどの蒸留酒のことをいいます。本書にはフランスを中心とした世界各地の蒸留酒の生産地や逸話、材料や香りづけの果実や薬草の知識がつめこまれています。

ラウル・デュフィ《ムーラン・ド・ラ・ギャレット（ルノワールに倣って）》リトグラフ、ポショワール
Raoul DUFY, *Moulin de la Galette (after Renoir)*, Lithograph and pochoir

Eaux-de-vie : Esprit de la Fleur et du Fruit

ラウル・デュフィ《芳しき山》リトグラフ、ポショワール
Raoul DUFY, *Fragrant Mountains*, Lithograph and pochoir

その中に、アルプスの山中に佇む修道院で製造される薬草酒「シャルトルーズ」の話がでてきます。今でもなお一握りの修道士しかその調合を知らないという秘伝の薬草酒です。そこに添えられた挿絵《芳しき山》は、修道院から静謐な山に立ちのぼる薬草の香りを想像させますが、実はデュフィの既存の水彩画を転用したものです。ほかの挿絵も、本書のための描き下ろしではなく、既存作品からの複製と考えられるでしょう。版画でありながら、水彩画と見間違えるような画家特有の筆使いが巧みに再現されています。

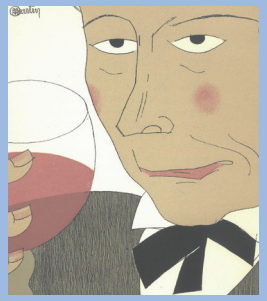
──挿絵入り書物によるワインのイメージ形成と拡散

20世紀はワインについての本や雑誌がたくさん刊行された時代でした。それにより、産地の知識やワイン評、飲み方まで、専門家ではない人々の間にもワインにまつわる共通の情報や価値観が育まれていくことになります。今も続くフランスの老舗ワイン商ニコラは、1924年から27年まで『ワイン閣下』という5巻のシリーズ本を刊行し顧客に配りました。4巻目まではワインの歴史やフランスワイン諸産地について書かれ、5巻目ではワインの嗜み方が説かれています。イラストレーターのシャルル・マルタン（1884–1934）による小粋な挿絵が、洗練されたフランスワインのイメージを伝えています。

栓をあける

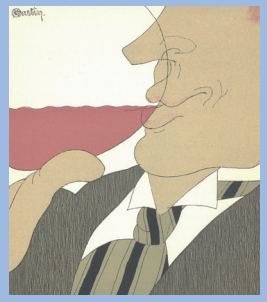
コルクの香りをかぐ

ゆっくり注ぐ


心の準備をする

目の楽しみ

鼻の楽しみ


口の楽しみ

評価する

ルイ・フォレスト著、シャルル・マルタン挿絵
『ワインの心得ー準備の仕方、注ぎ方、飲み方について』（『ワイン閣下』第５巻）パリ：ニコラ、1927年
Texte de Louis Forest, Dessins de Charles Martin
L'art de boir, préparer, servir, boire. (*Monseigneur le Vin*, livre 5e), Paris : Établissement Nicolas, 1927

13 Le Vin
contre l'Obésité

L'eau a tendance à épaissir les chairs.
En effet, pour neutraliser les poisons provenant de la nutrition et non détruits par des sécrétions internes devenues insuffisantes faute d'un excitant comme le vin, c'est la graisse qui se forme et intervient chez le buveur d'eau.
Il en va tout autrement chez les buveurs modérés de vin, celui-ci exerçant une action heureuse sur les glandes chargées de brûler les résidus de la nutrition. Aussi bien, le Docteur DOUGNAC montre que ces glandes, sécrétrices d'hormones destructeurs des déchets, feront bien mieux leur besogne excitées par le vin :
"Elles se défendront plus activement contre les" "auto-intoxications génératrices de migraine," "d'éczéma, de goutte, d'obésité."

Et le Professeur ARMAND GAUTIER, de l'Académie de Médecine, est aussi d'avis que le vin amplificateur des défenses de l'organisme, permettra une lutte plus sévère contre les auto-intoxications, dépression nerveuse et obésité.

"Les buveurs modérés de vin sont maigres parce qu'ils brûlent" "leurs déchets." DOCTEUR CHARLES FIESSINGER

– VOYONS, CHÈRE AMIE, VOUS LAISSEZ VOTRE VERRE PLEIN D'UN VIN PAREIL ! C'EST UN CRIME...
– J'Y AI GOUTÉ... JE LUI REND JUSTICE... MAIS ON PRÉTEND QUE LE VIN FAIT ENGRAISSER, ET JE TIENS A MA LIGNE...
– QUELLE SOMBRE ERREUR ! VOUS ÊTES EN CONTRADICTION AVEC LA SCIENCE... JE VOUS CONSEILLE DE LIRE LA THÈSE DU DOCTEUR FRANÇOIS DOUGNAC SUR LE VIN...

ガストン・ドリ著、ラウル・デュフィ挿絵
『ワインは私のお医者様』
パリ：ドレジェール兄弟社、1936年
Texte de Gaston Derys
Illustration de Raoul Dufy
Mon docteur le vin
Paris: Draeger frères, 1936

1936年には、同じくニコラのノベルティ・グッズとして、デュフィの挿絵本『ワインは私のお医者様』が制作されました。ワインがもたらす美や健康への効果について書かれている一冊です。スポーツや創作活動への効能もうたわれています。
デュフィの生き生きとした筆致や明るい色使いの挿絵は、ワインのある生活に明るく洒落たイメージを添えることに成功しています。ここではワインは日々の健康を助けるものとして、そしてエレガントな都市生活を演出する道具として描かれました。

挿絵本の背景

──日本人が描いた20世紀パリの街

20世紀のパリには、多くの日本人画家が滞在していました。彼らによって、ワイン文化の舞台パリの街や居酒屋が描かれています。

佐伯祐三（1898-1928）は両大戦間にあたる1920年代のパリで、繰り返しカフェやレストランを描きました。壁のポスターや文字を描くことに関心があった画家は人物像を省略していますが、人々が集い酒を飲み交わした場所の雰囲気が力強く描かれています。

荻須高徳（1901-1986）の《角の居酒屋》は第二次大戦中に描かれており、画面にはうら寂しい雰囲気が漂います。この頃はワインの消費量も落ち込みました。

平賀亀祐（ひらがかめすけ）（1889-1971）の《古い巴里の街角》は、『オー・ド・ヴィー：花と果実のエスプリ』の刊行年と同じ1954年に制作されたものです。通りの奥を歩く人や、建物の窓から顔をのぞかせている人が、街に生活感を添えています。第二次大戦後に再び穏やかさを取り戻したパリの、何気ない日常の雰囲気が伝わってくる一枚です。

荻須高徳
《角の居酒屋》1940年、油彩・カンヴァス
OGISU Takanori
Bistro on the Corner, 1940, Oil on canvas

平賀亀祐
《古い巴里の街角》1954年、油彩・カンヴァス
HIRAGA Kamesuke
Old Street Corner in Paris, 1954, Oil on canvas

INFO ROOM

4階インフォルームのご案内

4階展示室出口の向かいにあるインフォルームでは、展覧会に出品されている作家や作品に関連した貴重図書資料を展示しています。

今回は、本特集展示でご紹介した関連書籍の『**ワイン閣下』第5巻**と『**ワインは私のお医者様**』をデジタル化し、全文を閲覧できるようにしています。展示室では限られたページしか見ることのできない貴重図書の中身をぜひご覧ください。

──ワインの歴史研究者ジルベール・ガリエはこのような言葉を残しています。

空瓶は捨てるしかないが、本はいつでも気が向いた時に開いて読み返し、少しずつ熟成させることができる（…）ワインのように本も味わってみたい。*

* ジルベール・ガリエ『ワインの文化史』八木尚子訳、筑摩書房、2004年、464頁

Selections from the Ishibashi Foundation Collection Special Section

France and Wine in the 20th Century, in Illustrated Books

The Ishibashi Foundation Collection includes rare books beautifully illustrated by artists. Maurice Utrillo and other distinguished twentieth-century French artists created the illustrations for three of those volumes on the subject of wine and spirits.

This special section includes those three books: *Vins, Fleurs et Flammes* (Wines, flowers and flames, 1952), *À Travers Nos Vignes* (Across our vineyards, 1952) and *Eaux-de-vie: Esprit de la fleur et du fruit* (Eaux-de-vie: Spirit of flower and fruit, 1954). All three volumes were published by Bernard Klein, a Parisian publisher. They are joined in this section by related works, including other books.

Through these books, we introduce one aspect of creative activity at that time, exploring how artists were connected to the drinking culture of twentieth-century France and what modes of expression artists developed for working in this particular medium, the book.

ラウル・デュフィ《乾杯の時》
(ルネ・エロン・ド・ヴィルフォス著、ジョルジュ・デュアメル序『オー・ド・ヴィー：花と果実のエスプリ』のための挿絵) 1954 年刊、エッチング

Raoul DUFY, *Time for a Toast* (Illustration for *"Eaux-de-vie: Spirit of Flower and Fruit"* Text by René Héron de Villefosse, Introduction by Georges Duhamel) Published in 1954, Etching

モーリス・ユトリロ
《トリコロールのワイン》
(ジョルジュ・デュアメルほか著『葡萄酒、花、炎』のための挿絵)
1952 年刊、リトグラフ、ポショワール

Maurice UTRILLO, *Tricolor Wine* (Illustration for *"Wines, Flowers and Flames"* Text by Georges Duhamel, et al.) Published in 1952, Lithograph and pochoir

石橋財団コレクション
特集コーナー展示
挿絵本にみる20世紀フランスとワイン

2021年10月2日(土)ー2022年1月10日(月・祝)
アーティゾン美術館

企画・執筆：
黒澤美子

デザイン：
田畑 多嘉司
秋本 真奈帆

翻訳：
ルーシー・S.マクレリー

編集協力：
鈴木菜穂子

印刷：
株式会社 野毛印刷社

発行・著作：
公益財団法人石橋財団 アーティゾン美術館
〒104-0031 東京都中央区京橋 1-7-2

Photo Credit:
©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2021 C3597

Selections from
the Ishibashi Foundation Collection
Special Section
France and Wine in the 20th Century,
in Illustrated Books

2 October (Sat) – 10 January (Mon), 2021
Artizon Museum

Curation and Texts:
KUROSAWA Yoshiko

Design:
TABATA Takashi
AKIMOTO Manaho

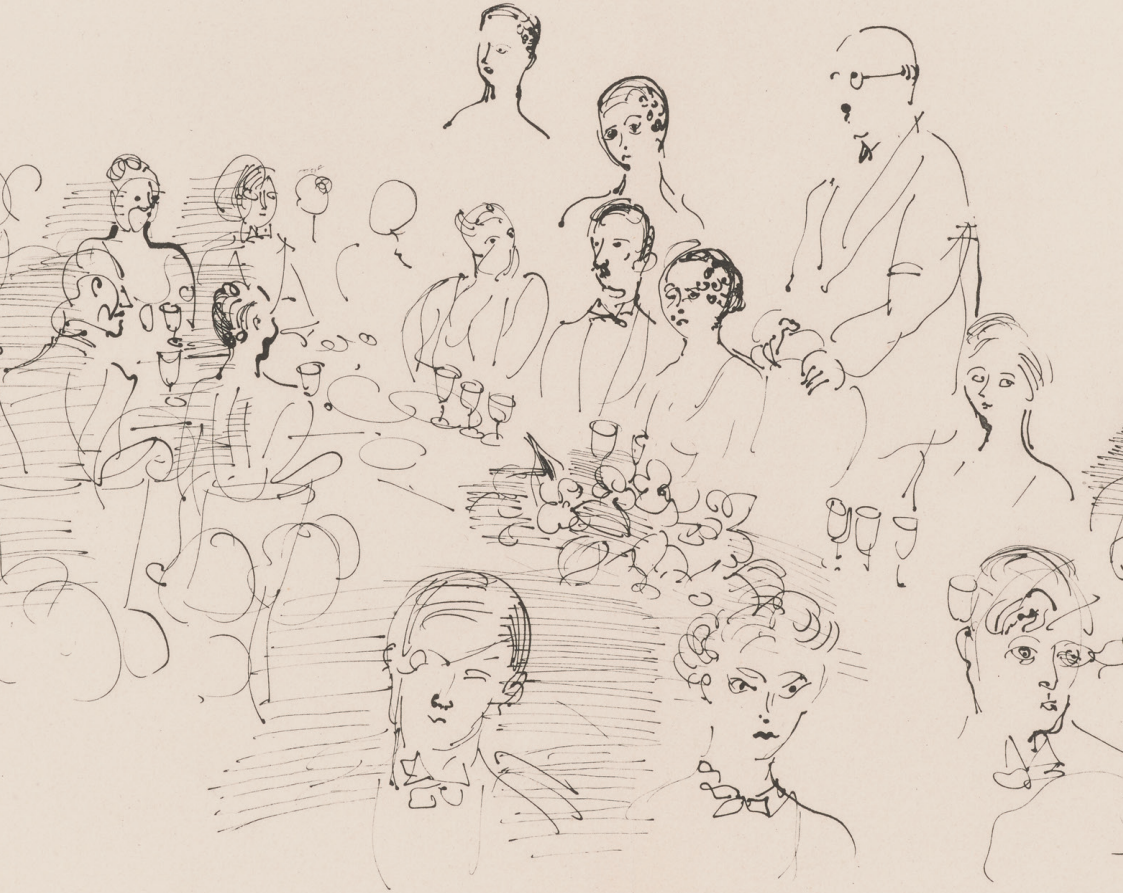
Translation into English:
Ruth S. McCreery

Editorial Cooperation:
SUZUKI Nahoko

Printed by
Noge Printing Corp.

Published by
Artizon Museum, Ishibashi Foundation ©2021
1-7-2, Kyobashi, Chuo-ku, Tokyo 104-0031, Japan

ISHIBASHI
FOUNDATION



公益財団法人石橋財団
アーティゾン美術館